ワークで、働く意欲を示すための求職をすると、関東電気保管協会を紹介された。試験を受けたら合格。資格がもう一度生かせると心が動き、再就職することに。結局、この仕事には78歳までの18年間も従事することになった。

ただ、いったん「無職の喜び」を味わった大町さんはもう仕事一辺倒の生活をしたいとは思わなかった。60歳からの人生をどう描くかと考えていたこともあり、定年前から東京都が主催する「シニアボランティアスクール」に参加していた。だから、いよいよ60歳になり、そのときがきたと思った。幸いにも再就職先の業務は自由度が高いので、仕事とボランティアを両立させることにしたのである。

ちょうど地元にも「江東ボランティア連絡会」が発足しており、会員として登録。子供たちに囲碁を教えるグループ活動を提案すると、4人の仲間が賛同してくれ、2000年に「ホタルの碁」を立ち上げた。活動理念は「囲碁を通して日本の将来を背負っていく子どもたちに、礼節を重んじる心、生きる力を育む」こと。「ホタル」には、飛んでいったところに活動の灯りを届けるという意味を込めた。

活動はボランティアセンターに部屋を借り、案内を出して参加者を集めることから始まった。しかし、最初は集まったが、だんだん参加者が減っていく。来るのを待っているのではなくて、こちらからニーズのあるところに行かなくてはならないと思い、近隣の小学校や幼稚園、児童館に教えにいくことを思いついた。そして、区の学習指導ボランティアに応募し、小学生の宿題や中学生の英数指導を担当。その後、囲碁を教えることにした。

小学校のクラブ活動に囲碁採用

そうして理解を深めてもらいながら、校長先生などに囲碁教室の開催を訴えた。最初に囲碁部を創設してくれたのは区立元加賀小学校。だから、元加賀小学校への愛着は深い。その後、囲碁教室を取り入れる小学校が増え、児童館や幼稚園などにも広がった。また、区民祭などにも積極的に参加し、囲碁の普及に努めている。

今では高齢者囲碁教室を含めると、区内の12か所で約1400人と触れ合っている。夢は、江東区全体での「学校対抗囲碁大会」の開催。江東区を「囲碁の町」にしたいと考えている。

大町さんには、囲碁に関する夢がもうひとつある。2020年の東京オリンピック・パラリンピックにはスポーツ観戦だけでなく、

今日は元加賀小学校の囲碁教室

囲碁教室の修了日。
皆勤賞の子どもには表彰状を

今日は勝ちたい!

これ、わかる?

なかなかいい手じゃない?

女流対決

トーナメントが始まり、皆、真剣

トーナメント戦表彰後の記念撮影